

平成28年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年7月31日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 プロトコーポレーション

コード番号 4298 URL <http://www.proto-g.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 神谷 健司

問合せ先責任者 (役職名) 取締役

(氏名) 清水 茂代司

TEL 052-934-2000

四半期報告書提出予定日 平成27年8月11日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第1四半期の連結業績(平成27年4月1日～平成27年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第1四半期	13,209	8.3	1,059	△15.7	1,095	△16.1	572	△41.2
27年3月期第1四半期	12,200	△11.6	1,257	△5.2	1,305	△6.6	973	27.8

(注)包括利益 28年3月期第1四半期 441百万円 (△38.1%) 27年3月期第1四半期 713百万円 (△19.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第1四半期	28.19	—
27年3月期第1四半期	47.63	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年3月期第1四半期	42,396	27,727	65.4
27年3月期	41,751	27,672	66.3

(参考)自己資本 28年3月期第1四半期 27,727百万円 27年3月期 27,672百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	19.00	—	19.00	38.00
28年3月期	—	—	—	—	—
28年3月期(予想)	—	19.00	—	19.00	38.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	25,720	7.3	2,227	△14.1	2,257	△15.9	1,315	△25.7	64.71
通期	56,862	17.0	5,510	30.2	5,574	22.5	3,457	45.1	170.11

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P.5「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P.6「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

28年3月期1Q	20,940,000 株	27年3月期	20,940,000 株
28年3月期1Q	617,450 株	27年3月期	617,370 株
28年3月期1Q	20,322,600 株	27年3月期1Q	20,445,200 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.5「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	5
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	6
3. 四半期連結財務諸表 .....	7
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	11
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	13
(継続企業の前提に関する注記) .....	13
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	13
(セグメント情報等) .....	13
4. 補足情報 .....	17
生産、受注及び販売の状況 .....	17

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間のわが国経済は、消費税率引き上げの影響が薄らぐことに加え、原油安と賃金の上昇を背景に、緩やかな回復基調にあります。しかし、中長期的には少子高齢社会の進行、個人消費の中核を担ってきた「団塊の世代」のリタイアの本格化など、依然として日本経済の先行きは不透明な状況が続いております。

こうした経済環境の中、当社グループの主要顧客である自動車販売業界におきましては、エコカー減税の厳格化の影響等により、新車販売台数は弱含みで推移した一方、中古車登録台数は前年実績を上回る水準で推移しております。

このような状況の中、当社グループにおきましては、ユーザー接点の拡大・強化を進めるとともに、プライベートブランド商品・サービスの創出と事業化を通じて、多様化する価値観への対応(絶対価値の追求)を図り、「企業ブランド」ならびに「商品ブランド」の強化を推進してまいりました。

また、独創的かつ革新的な商品・サービスの開発・提供を実現するにあたり、グループ各社が保有する経営資源を有効活用するとともに、グループ内に無いコンテンツ、サービスにつきましては、積極的にM&A・アライアンスにより対応を図ってまいりました。具体的には、自動車関連情報分野において平成27年4月に自動車タイヤ等の販売を手掛ける株式会社タイヤワールド館ベストを子会社化いたしました。

こうした取り組みの結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、主要事業である自動車関連情報分野において株式会社キングスオートの中古車輸出売上が前年同四半期を下回ったものの、平成27年4月に子会社化した株式会社タイヤワールド館ベストのタイヤ・ホイール販売が寄与したことなどから、13,209百万円(対前年同四半期比8.3%増)となりました。営業利益につきましては、事業拡大による人件費の増加、のれん償却額の増加、プライベートブランド商品・サービスへの先行投資が発生したことなどから1,059百万円(対前年同四半期比15.7%減)となり、経常利益につきましては、1,095百万円(対前年同四半期比16.1%減)となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、572百万円(対前年同四半期比41.2%減)となりました。

(参考情報) 連結業績予想と実績との差異

(金額単位：百万円)

	平成28年3月期第1四半期連結累計期間		
	業績予想	実績	差異
売上高	12,746	13,209	462
営業利益	1,017	1,059	41
経常利益	1,035	1,095	59
親会社株主に帰属する四半期純利益	599	572	△26

なお、事業のセグメント別の業績につきましては、次のとおりであります。

## ①自動車関連情報

当社グループを取り巻く外部環境が厳しい状況で推移する中、中古車販売店の総合的な経営支援を事業方針に掲げ、取引社数の拡大ならびに顧客当たりの取引単価の維持・拡大に努めてまいりました。

当第1四半期におきましては、引き続き、「Goo-net」のバックグラウンドシステムである「MOTOR GATE」の提供を通じて、中古車販売店の総合的な経営支援を推し進めるとともに、「Goo鑑定」、「GooPLUS」、「Goo保証」、「GooPit」、「GooAUTO」など、プライベートブランド商品・サービスの拡充・拡販を図り、カーライフにおけるユーザーニーズを網羅したサービスの強化に努めてまいりました。また、平成27年4月に国産タイヤの仕入に強みをもつ株式会社タイヤワールド館ベストを子会社化し、更なる事業拡大に取り組んでまいりました。

以上のことから、売上高は12,085百万円(対前年同四半期比8.4%増)となりました。増収となった主な要因は、株式会社キングスオートにおける中古車輸出売上において、主要な仕向地である香港向けの輸出が減少した一方、平成27年4月に子会社化した株式会社タイヤワールド館ベストのタイヤ・ホイール販売が寄与したことなどによるものであります。営業利益につきましては、事業拡大に伴う人件費の増加、のれん償却額が増加したこと、プライベートブランド商品・サービスへの先行投資が発生したことなどから、1,371百万円(対前年同四半期比15.3%減)となりました。

## ②生活関連情報

株式会社プロトメディカルケアにつきましては、引き続き、福祉用具のレンタルサービス事業の効率化を図るとともに、医療・介護・福祉関連事業におけるシナジーを追求することで更なる事業拡大に取り組んでまいりました。

また、当社につきましては、カルチャー情報事業において、趣味・資格の情報検索サイト「グースクール」の全面リニューアルにより、コンテンツの質の向上を図るとともに、ユーザーの更なる利便性の向上に努めてまいりました。リサイクル・リユース事業においては、引き続き、コンテンツの拡充・ユーザーの利便性の向上に努めてまいりました。

更に、株式会社プロトデータセンターの不動産情報誌「GooHome」につきましては、取引社数の拡大及び掲載物件の拡充を図るとともに、他社メディアとの提携により付加価値の高いサービスの提供に努めてまいりました。

以上のことから、売上高は812百万円(対前年同四半期比1.3%減)となりました。減収となった主な要因は、医療・介護・福祉関連事業が堅調に推移した一方、当社のカルチャー情報事業における広告収入が減少したことなどによるものであります。営業利益につきましては、医療・介護・福祉関連事業が増益に寄与したことから、81百万円(対前年同四半期比10.7%増)となりました。

## ③不動産

当社が自社物件の賃貸管理を中心に行い、売上高は41百万円(対前年同四半期比1.4%増)、営業利益は27百万円(対前年同四半期比23.2%増)となりました。

## ④その他

平成26年10月に子会社化した株式会社アイソリューションズのソフトウェア開発売上が寄与したことから、売上高は269百万円(対前年同四半期比41.2%増)となりました。営業利益につきましては、18百万円の営業損失(前年同四半期実績は39百万円の営業損失)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## ①資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末の総資産は42,396百万円となり、前連結会計年度末と比較して645百万円の増加となりました。資産、負債及び純資産の状況につきましては、次のとおりであります。

## i 資産

流動資産につきましては、株式会社タイヤワールド館ベストの株式取得資金の支払や前期法人税等の確定納付が発生したことから現金及び預金が減少したほか、株式会社オートウェイにおける商品在庫の適正化によるたな卸資産の減少、タイヤ通販売上に係る売上債権の減少などにより、20,999百万円となり、前連結会計年度末と比較して743百万円の減少となりました。

固定資産につきましては、株式会社タイヤワールド館ベストの子会社化に伴い有形固定資産が増加したことと、同社株式の取得に係るのれんを計上したことなどから、21,397百万円となり、前連結会計年度末と比較して1,389百万円の増加となりました。

## ii 負債

流動負債につきましては、法人税等の支払により未払法人税等が減少したものの、短期借入金が増加したこと、株式会社タイヤワールド館ベストの子会社化に伴い仕入債務が増加したことなどから、11,881百万円となり、前連結会計年度末と比較して918百万円の増加となりました。

固定負債につきましては、長期借入金の返済により、2,787百万円となり、前連結会計年度末と比較して329百万円の減少となりました。

## iii 純資産

剰余金の配当が386百万円発生したものの、親会社株主に帰属する四半期純利益572百万円の計上により利益剰余金が増加したことから、純資産は27,727百万円となり、前連結会計年度末と比較して55百万円増加しております。

## ②キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結累計期間における現金及び現金同等物につきましては、前連結会計年度末と比較して1,021百万円減少し、11,009百万円となりました。現金及び現金同等物が減少した主な要因につきましては、次のとおりであります。

## i 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益1,076百万円、支出を伴わない減価償却費及びのれん償却額の合計で494百万円、株式会社オートウェイの商品在庫の減少に伴うたな卸資産の減少が609百万円、消費税の支払が396百万円、前期の法人税等の支払が1,058百万円発生したことなどから、599百万円の収入となりました。

## ii 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、株式会社タイヤワールド館ベストの株式取得に係る支出が1,540百万円、固定資産の取得による支出が153百万円発生したことなどから、1,706百万円の支出となりました。

## iii 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、当社において前期期末配当金の支払が375百万円発生したものの、短期・長期借入金の純増加額が477百万円発生したことにより、102百万円の収入となりました。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

現在のところ概ね当初計画通りに進捗していることから、平成27年5月8日に公表いたしました業績予想に変更はございませんが、今後の進捗状況等に応じ、精査の上、開示すべき事象が生じた場合には速やかに公表いたしません。

なお、業績見通しは、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき算定しておりますが、予想に内在する不確定要因や今後の事業運営における状況の変化等により、実際の業績等は大きく異なる可能性があることをご了承ください。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

なお、特定子会社の異動には該当しておりませんが、当第1四半期連結累計期間における子会社の異動は以下のとおりであります。

新規：株式会社タイヤワールド館ベスト

当社は、国内最大級の中古車登録台数を誇るクルマ・ポータルサイト「Goo-net」を軸に消費者メリットを追求した様々な情報サービスを提供しております。また、「Goo鑑定」を始めとする商品・サービスの更なる強化を推進するとともに、当社の主力事業である自動車関連事業の更なる成長を図っていくため、事業領域の一層の拡大に取り組んでおります。

株式会社タイヤワールド館ベストは、東北地方を中心に、主に店舗での自動車タイヤ等の販売などを行っており、国産タイヤの仕入に強みをもっております。今後、当社としては、消費者への提供だけでなく、当社の顧客である中古車販売店、整備業者向けのタイヤ販売を強化すること、クルマ・ポータルサイト「Goo-net」を中心とした当社メディアとのシナジーを通じて、株式会社タイヤワールド館ベストの更なる事業規模拡大を図っていくことを目的として、同社を子会社化いたしました。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

#### ①一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第1四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

#### ②固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している固定資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、 「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を、当第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更いたしました。また、当第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更いたしました。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第1四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

当第1四半期連結累計期間の四半期連結キャッシュ・フロー計算書においては、連結範囲の変動を伴う子会社株式の取得関連費用に係るキャッシュ・フローを「営業活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載しております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

この結果、当第1四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ10,615千円減少しております。



## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,431,593	11,410,427
受取手形及び売掛金	4,690,743	4,548,631
電子記録債権	6,200	5,400
商品及び製品	3,629,207	3,424,826
仕掛品	96,221	122,503
原材料及び貯蔵品	9,540	26,190
繰延税金資産	341,462	335,703
その他	654,873	1,238,644
貸倒引当金	△116,368	△112,822
流動資産合計	21,743,473	20,999,503
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,197,249	5,243,820
土地	4,787,130	4,787,130
その他(純額)	473,478	464,010
有形固定資産合計	10,457,858	10,494,961
無形固定資産		
のれん	5,888,939	7,217,793
その他	2,199,604	2,175,366
無形固定資産合計	8,088,543	9,393,160
投資その他の資産		
投資有価証券	383,576	395,153
繰延税金資産	245,949	219,475
その他	870,489	932,229
貸倒引当金	△38,480	△37,761
投資その他の資産合計	1,461,535	1,509,097
固定資産合計	20,007,937	21,397,218
資産合計	41,751,411	42,396,722

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	806,482	1,907,862
短期借入金	2,400,000	3,220,000
1年内返済予定の長期借入金	1,223,530	1,195,106
未払法人税等	1,077,130	438,514
返品調整引当金	106,698	86,061
賞与引当金	115,482	199,088
返金引当金	513	408
ポイント引当金	22,872	22,853
その他	5,210,213	4,811,748
流動負債合計	10,962,923	11,881,643
固定負債		
長期借入金	2,608,043	2,294,342
役員退職慰労引当金	290,775	229,002
資産除去債務	53,497	90,733
その他	163,966	173,102
固定負債合計	3,116,282	2,787,181
負債合計	14,079,205	14,668,824
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,824,620	1,824,620
資本剰余金	2,011,734	2,011,734
利益剰余金	23,596,966	23,783,774
自己株式	△908,000	△908,158
株主資本合計	26,525,320	26,711,971
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	121,673	129,537
為替換算調整勘定	1,025,211	886,387
その他の包括利益累計額合計	1,146,885	1,015,925
純資産合計	27,672,205	27,727,897
負債純資産合計	41,751,411	42,396,722

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
売上高	12,200,226	13,209,107
売上原価	7,093,827	7,957,523
売上総利益	5,106,398	5,251,583
返品調整引当金戻入額	104,521	105,175
返品調整引当金繰入額	98,425	86,192
差引売上総利益	5,112,494	5,270,567
販売費及び一般管理費		
役員報酬及び給料手当	1,489,624	1,610,710
役員退職慰労引当金繰入額	5,287	4,537
賞与引当金繰入額	56,074	80,484
広告宣伝費	515,250	520,679
貸倒引当金繰入額	△1,139	△5,812
ポイント引当金繰入額	3,601	3,160
のれん償却額	227,466	257,872
その他	1,559,203	1,739,666
販売費及び一般管理費合計	3,855,368	4,211,297
営業利益	1,257,126	1,059,269
営業外収益		
受取利息	4,894	6,718
受取配当金	6,048	6,047
為替差益	17,246	32,468
その他	43,283	20,729
営業外収益合計	71,472	65,964
営業外費用		
支払利息	18,089	12,326
デリバティブ評価損	958	13,669
その他	3,653	4,127
営業外費用合計	22,701	30,122
経常利益	1,305,897	1,095,110
特別利益		
固定資産売却益	1,960	60
子会社清算益	214,922	—
その他	6,043	—
特別利益合計	222,926	60
特別損失		
固定資産売却損	882	—
固定資産除却損	1,340	18,704
和解金	1,413	—
特別損失合計	3,636	18,704
税金等調整前四半期純利益	1,525,188	1,076,467
法人税、住民税及び事業税	616,655	431,747
法人税等調整額	△65,295	71,780
法人税等合計	551,360	503,528
四半期純利益	973,827	572,938
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	973,827	572,938

## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
四半期純利益	973,827	572,938
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	15,011	7,864
為替換算調整勘定	△275,115	△138,823
その他の包括利益合計	△260,103	△130,959
四半期包括利益	713,723	441,979
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	713,723	441,979
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,525,188	1,076,467
減価償却費	209,861	236,766
のれん償却額	227,466	257,872
デリバティブ評価損益(△は益)	958	13,669
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	4,537	△61,772
賞与引当金の増減額(△は減少)	27,182	61,419
返品調整引当金の増減額(△は減少)	△14,888	△19,685
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△3,846	△6,853
ポイント引当金の増減額(△は減少)	1,324	△18
受取利息及び受取配当金	△10,942	△12,766
支払利息	18,089	12,326
為替差損益(△は益)	△17,563	△18,988
固定資産除売却損益(△は益)	262	18,643
事業譲渡損益(△は益)	△6,043	—
子会社清算損益(△は益)	△214,922	—
売上債権の増減額(△は増加)	489,588	46,855
たな卸資産の増減額(△は増加)	640,493	609,597
仕入債務の増減額(△は減少)	△5,774	135,184
未払費用の増減額(△は減少)	160,124	△271,694
前受金の増減額(△は減少)	178,534	198,571
未払消費税等の増減額(△は減少)	45,989	△396,209
その他	△6,081	△222,111
小計	3,249,538	1,657,272
利息及び配当金の受取額	10,591	12,760
利息の支払額	△17,534	△12,380
法人税等の支払額	△1,575,534	△1,058,553
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,667,061	599,098

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△6,900	—
定期預金の払戻による収入	50,200	—
有形固定資産の取得による支出	△11,883	△31,256
有形固定資産の売却による収入	3,345	48
無形固定資産の取得による支出	△72,279	△121,829
長期前払費用の取得による支出	△6,165	△414
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△1,540,657
事業譲受による支出	△33,009	—
事業譲渡による収入	8,640	—
その他	△54,062	△12,765
投資活動によるキャッシュ・フロー	△122,114	△1,706,874
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の増減額(△は減少)	△929,030	820,000
長期借入金の返済による支出	△744,998	△342,125
自己株式の取得による支出	△56	△157
配当金の支払額	△372,141	△375,296
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,046,226	102,421
現金及び現金同等物に係る換算差額	8,498	△15,818
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△492,780	△1,021,172
現金及び現金同等物の期首残高	11,097,287	12,030,649
現金及び現金同等物の四半期末残高	10,604,506	11,009,477

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

## 1 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、主に自動車ならびに生活に関連する情報を収集・整理・分類し、有用な情報コンテンツに加工した上で、当社グループのメディアを通じて消費者ならびに法人企業の皆様に提供するとともに、法人企業の事業運営を支援する関連サービスの提供を行っております。従って、当社グループはこの情報コンテンツを基にセグメントが構成されており、「自動車関連情報」、「生活関連情報」、「不動産」及び「その他」の4つを報告セグメントとしております。なお、各報告セグメントに含まれる主要品目は、以下のとおりであります。

報告セグメント	主要品目等
自動車関連情報	クルマ情報誌「Goo」、輸入車情報誌「GooWORLD」 バイク情報誌「GooBike」、クルマパーツ情報誌「GooParts」 バイク専門誌「ROAD RIDER」 クルマ・ポータルサイト「Goo-net」 バイク専門ポータルサイト「BikeBros.」 「週刊オークション情報」、中古車データ検索システム「データライン」 「月刊ボデーショップレポート」、钣金塗装見積りシステム「モレノン」 自動車整備業マネジメントシステム「SuperATOM3」、「PIT3」 自動車整備業钣金統合システム「ラクロス」 中古車輸出事業 タイヤ・ホイール通販サイト「AUTOWAY LOOP」
生活関連情報	介護の総合検索サイト「オアシスナビ×ハートページ」 医療・介護・福祉の求人転職サイト「介護求人ナビ」 看護師専門求人サイト「ナースエージェント」 看護師専門の転職支援サービス「Medical CUBIC」 介護情報誌「ハートページ」 趣味・資格の情報検索サイト「グースクール」 買取価格比較検索サイト「おいくら」
不動産	賃貸等不動産の保全・管理
その他	BPO(ビジネスプロセスアウトソーシング) 太陽光発電

## 2 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	自動車 関連情報	生活 関連情報	不動産	その他	計		
売上高							
外部顧客への売上高	11,145,211	823,361	40,510	191,143	12,200,226	—	12,200,226
セグメント間の内部 売上高又は振替高	6,615	260	58,171	18,969	84,016	△84,016	—
計	11,151,826	823,621	98,682	210,113	12,284,242	△84,016	12,200,226
セグメント利益 又は損失(△)	1,619,535	73,887	22,338	△39,022	1,676,739	△419,613	1,257,126

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額には、セグメント間取引消去833千円、全社費用△420,446千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。



## II 当第1四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)

## 1 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、主に自動車ならびに生活に関連する情報を収集・整理・分類し、有用な情報コンテンツに加工した上で、当社グループのメディアを通じて消費者ならびに法人企業の皆様に提供するとともに、法人企業の事業運営を支援する関連サービスの提供を行っております。従って、当社グループはこの情報コンテンツを基にセグメントが構成されており、「自動車関連情報」、「生活関連情報」、「不動産」及び「その他」の4つを報告セグメントとしております。なお、各報告セグメントに含まれる主要品目は、以下のとおりであります。

報告セグメント	主要品目等
自動車関連情報	クルマ情報誌「Goo」、輸入車情報誌「GooWORLD」 バイク情報誌「GooBike」、クルマパーツ情報誌「GooParts」 バイク専門誌「ROAD RIDER」 クルマ・ポータルサイト「Goo-net」 バイク専門ポータルサイト「BikeBros.」 「週刊オークション情報」、中古車データ検索システム「データライン」 「月刊ボデーショップレポート」、钣金塗装見積りシステム「モレノン NEXT」 自動車整備業マネジメントシステム「SuperATOM3 NEXT」、「PIT3 NEXT」 自動車整備業钣金統合システム「ラクロス」 中古車輸出事業 タイヤ・ホイール等の販売
生活関連情報	介護の総合検索サイト「オアシスナビ×ハートページ」 医療・介護・福祉の求人転職サイト「介護求人ナビ」 看護師専門求人サイト「ナースエージェント」 看護師専門の転職支援サービス「Medical Cubic」 介護情報誌「ハートページ」 趣味・資格の情報検索サイト「グースクール」 買取価格比較検索サイト「おいくら」
不動産	賃貸等不動産の保全・管理
その他	BPO（ビジネスプロセスアウトソーシング） 太陽光発電 ソフトウエア開発・販売等

## 2 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	自動車 関連情報	生活 関連情報	不動産	その他	計		
売上高							
外部顧客への売上高	12,085,437	812,731	41,092	269,846	13,209,107	—	13,209,107
セグメント間の内部 売上高又は振替高	5,737	394	57,934	30,617	94,684	△94,684	—
計	12,091,174	813,125	99,027	300,463	13,303,792	△94,684	13,209,107
セグメント利益 又は損失(△)	1,371,026	81,757	27,522	△18,258	1,462,049	△402,779	1,059,269

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額には、セグメント間取引消去△5,455千円、全社費用△397,324千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

当第1四半期連結会計期間末ののれんは7,217,793千円となり、前連結会計年度末と比較して1,328,854千円増加いたしました。のれんが増加した主な要因は次のとおりであります。

「自動車関連情報」セグメントにおいて、平成27年4月に株式会社タイヤワールド館ベストを子会社化したことに伴い、1,705,357千円ののれんを計上しております。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

## 4. 補足情報

## 生産、受注及び販売の状況

当第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年6月30日)

## ①生産実績

当第1四半期連結累計期間の生産実績を報告セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

報告セグメントの名称	当第1四半期連結累計期間(千円)	前年同四半期比(%)
自動車関連情報	1,431,625	114.3
生活関連情報	58,266	151.2
その他	769	—
合計	1,490,660	115.4

- (注) 1 セグメント間取引につきましては、相殺消去しております。  
 2 金額には、消費税等は含まれておりません。  
 3 生産実績につきましては、自動車関連情報、生活関連情報、その他における外注費を表示しております。不動産につきましては、生産実績がありませんので、記載しておりません。

## ②受注実績

受注後売上計上までの期間が概ね1ヶ月以内であるため、記載を省略しております。

## ③販売実績

当第1四半期連結累計期間の販売実績を報告セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

報告セグメントの名称	当第1四半期連結累計期間(千円)	前年同四半期比(%)
自動車関連情報	12,085,437	108.4
情報登録・掲載料	5,021,494	99.9
情報提供料	7,063,942	115.4
生活関連情報	812,731	98.7
不動産	41,092	101.4
その他	269,846	141.2
合計	13,209,107	108.3

- (注) 1 セグメント間取引につきましては、相殺消去しております。  
 2 金額には、消費税等は含まれておりません。  
 3 自動車関連情報の情報登録・掲載料につきましては、主に情報誌への広告掲載料であります。また、情報提供料につきましては、主に法人向けデータ提供料のほか、中古車輸出、タイヤ・ホイール等の販売に係る売上が含まれております。